

CS だより

日本キリスト教団逗子教会
牧師 小宮山剛
校長 渡辺 信

聖書のことば

『神の国は、君たちの間にあるんだよ』

神の国とは、神さまの思いが実現するところ。でもそれは、どこか夢のようなところにあるのではなく、私たちの間にもうすでにあるんだよ、という言葉です。私たちがお互いを大切に、自分のわがままを第一にするのではなく、苦しむ人、悲しむ人、助けを求める人に自分ができることをしていくこと。お互いのあやまちをゆるし、お互いの違いを受け入れて、それぞれの中にある神さまの存在に気づくこと。その時、そこにもう神の国はあるんだよ、というメッセージです。
(『イエスのことば100』より)

先週のナルドクラスの分級では、「〇〇の秋」について、自分の思った言葉を入れて発表しました。「食欲」「スポーツ」「読書」・・・あなたなら何かな？毎年10月の第2日曜日は神学校日と言って、神学生（牧師になる勉強をしている人）が10時半（今年は午後2時）からの礼拝で説教をします。教会にとっては「神学生を応援する秋」かもしれません。

今月から、CS だよりは月1回の発行になります。『説教から』の掲載は、1回分だけになりますので、9時からの礼拝にいらしてくださいね。短時間ですが、分級もします。

~~~~~ここからは、礼拝でのお話です~~~~~

9月27日の説教から 『聖霊により宿り乙女マリヤより生まれ』

新約聖書：ルカによる福音書1章26～38節  
こどもさんびか：4『つくりぬしをさんびします』  
ブレイズソング：17『いつも喜んでいなさい』

逗子教会 CS では、9月からテーマを「使徒信条」としています。「使徒信条」は、新約聖書を的確に要約しており、私たち人間にとって、イエス様を信じる目的を教えるものです。CS の後の主日礼拝では、CS の礼拝で行う「主の祈り」と同じように毎週全員でこの「使徒信条」も声を出して告白します。私たちにとって「使徒信条」は「主の祈り」と同じように神様を信じるために必要なとても大事なものです。

さて、今日は「使徒信条」の「聖霊により宿り乙女マリヤより生まれ」という言葉について話します。今日の聖書は、この言葉を表した箇所、よくクリスマスで読まれるところです。イエス様がお生まれになる場面で、よく知っている人も多いと思います。イエス様は人間としてマリヤさんからお生まれになりました。生まれたときは赤ちゃんです。

そして、普通の人間と同じように赤ちゃんから皆さんと同じような時を過ごして、大人になって、聖書に書かれている沢山の神様の力をお示しになったイエス様に成長しました。



イエス様は人間のマリヤさんから人間としてこの世に誕生しました。ですから、イエス様は人間の体をもった神様です。人間はとても面倒くさい生き物です。私も含めて今逗子教会にいるみなさんも人間なので、これからお昼になるとおなかが空きます。お腹が空くとご飯を食べなければなりません。面倒くさいのはそれだけではありません。夜には眠くなります。夏は暑いし、冬は寒いと感じます。悲しいことがあると涙を流します。そして病気にもなるし、怪我もします。大きな怪我をすると長く痛みを感じます。

人間には、とても嫌な部分もあります。自分の思い通りにならないと、周りにいる人に文句を言ったり、喧嘩をしたりします。自分を守るために、他人の所為にしたり、嘘をついたりします。なんと人間は、弱い生き物なのでしょう。

イエス様はわざわざ、この弱い人間として誕生されたのです。そして私たち人間と一緒に生活し、成長しました。ですから人間の弱いところを現実を感じ、良く知っています。

私たちの信じるイエス様は、私たちの弱さや嫌なところを良く知っていて、それでも私たち人間を救うために、身代わりとなって十字架に架かって下さいました。今日のお話では、皆さんにこのことを覚えてもらいたいと思います。  
<M. W>

10月4日の説教から 『十字架のイエス様と私たち』

新約聖書：ルカによる福音書23章20～24, 32～34節  
こどもさんびか：3『うれしいあさよ』  
ブレイズソング：5『主は今生きておられる』

逗子教会では、10時半から主日礼拝と呼ばれる礼拝を守っています。（今は、礼拝の人数を分けるために同じ礼拝を午後の2時から守っています）「大人の礼拝」と呼ぶこともありますが、赤ちゃんや子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで誰が出てても良い礼拝です。「主の祈り」と同じように、礼拝の中、必ず皆で心を合わせて声にするのが「使徒信条」です。先週の礼拝で渡辺先生は、「使徒信条は、イエス様を信じる目的を教えるもの」と言われました。そして渡辺先生は、「人間としてマリヤさんからお生まれになったイエスさまは、人間として私たちとともに生きられ、私たちの弱いところや、罪を知ってくださった」ということを話されました。

今日は、使徒信条の中の『ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ』というところからのお話をします。

ポンテオ・ピラト・・・、この人はイエスさまを十字架にかけるかどうかの裁判の責任の役をとった人です。私は、自分が中学生や高校生の頃『使徒信条』の『ポンテオ・ピラト』という名前の響きが暗号のように思っていました。段々と聖書をよく知るうちに、「なぜ、ポンテ

オ・ピラトだけが、『苦しみを与えた人』と言われ続けるのだろうか？」と不思議に感じました。そして今私は、「ポンテオ・ピラトは私のことでもある」と思えるようになりました。「どうして？ポンテオ・ピラトは私のことと思うの？」と尋ねられたら、まず、「イエスさまは、私の罪のためにも苦しみを受け、十字架におかかりになられたから」と、答えるでしょう。それと、ポンテオ・ピラトの弱さと私の弱さは同じだと思うからです。

イエスさまを捕まえた人たちが、イエスさまをポンテオ・ピラトの前に連れて来て「この男を死刑にするように」と言いましたが、ピラトはイエスさまには何も罪を見つけることができませんでした。そこで、「死刑にはできない、釈放して帰そう」と言いました。しかしピラトは、大勢の人たちの、「十字架につけろ」「十字架につけろ」と叫び続ける声に負けて、「それならば、そうしよう」と、決めてしまったのでした。私にも、同じような弱さがあります。周りの人たちの強い意見に負けて自分が正しいと思ったことをひっくり返してしまったり、「周りからよく思われたい」という気持ちで自分を守ってしまう弱さをもっています。使徒信条にわざわざポンテオ・ピラトという人間の名前が入っているのは、「人間の姿でお生まれになり、人間とともに生きてくださったイエスさまが 2000 年ほど前に確かにいらした」ということを、そして「そのイエスさまは、人間の弱さのために、人間の身代わりとして、十字架にかかってくくださった」ということを、私たちに知らせるためだと今は思えます。



今日の聖句カードには、十字架を背負って歩かれるイエスさまの絵が描かれています。この絵を描いた人は、想像して十字架の上に色々な人の絵を描いています。実際にイエスさまが背負われたのは木で作られた重い十字架ですが・・・この絵のようにイエスさまは、私のことを、そして私たちみんなのことを愛し、私たちの罪を背負って十字架にかかってく

さいました。私たちが救うために死んでくださいました。

イエスさまは死なれたままではありません。3日目によみがえられて、今も生きておられます。嬉しい時も悲しい時もともにいて、私たちが愛し導いていてくださいます。感謝します。

<T. 0>

## これからのお話

10月11日『イエスさまの死』



10月18日『よみがえったイエス様』



10月25日

『天に昇られたイエス様』



\* カードの出典は福音主義教会連合



## 幼児祝福式のおしらせ



日時：11月15日（日）第1礼拝（午前10時半～）と第2礼拝（午後2時～）の中で  
場所：逗子教会礼拝堂

例年通り、就学前の子どもたちの、祝福の時を持ちます。密を避けるため、聖壇に集まって行うことはできませんが、一緒に幼児祝福礼拝をまもり、小宮山牧師に祝福していただきます。写真撮影やプレゼントもありますよ！第1礼拝でも第2礼拝でも、都合の良い方にお出席できます。みなさんが知っている小さいお友だちに教えてあげてくださいね。案内のチラシは教会にあります。



\* 逗子教会 CS についてのお問い合わせはこちらへどうぞ！

電話：046-873-8724 ファックス：046-854-7712 メール：cs@zushikyokai.holy.jp